

## 要 旨

### 自己回復手段としてのブログ行為の可能性

——不妊当事者によるブログの質的分析を通して——

辻 実波

本研究の目的は、不妊治療が不妊当事者に理想の姿を押し付ける形で成立するシステムであることを指摘し、治療に依存することの危険性、加えて自己を語ることで発見できる自己（対象的自己）の存在に気づくことの重要性について主張することである。そうした観点から、不妊治療を受けるある女性のブログの質的分析を行うこととした。

対象としたのは、ココログに登録されたブログ「シアワセノカタチ」（登録名ルミコ）だ。このブログを対象とした最も大きな要因は、著者であるルミコが治療をやめる決断をした背景に、様々な葛藤が見られたからである。そこには、自分自身と向き合い心の深い部分まで探求する語りがあった。彼女の語りを抽出しながら治療終結に至るプロセスをたどることで、不妊当事者である一人の女性の悩みの本質に迫ることができると期待する。またブログの社会的・文化的背景に留意しながら、自己を語る行為の可能性についても探りたいと考えた。

質的研究に用いられる M-GTA の手順・方法論を参考にして分析箇所を選定と分析を行った。まずブログが質的研究に応用可能なデータであることを確認した上で、ブログテキストのデータベースの構築を行い、ルミコの心境に関する語りを重点的に抽出し、各ブログ記事の要約を試みた。そして大まかな心の揺れの全体像を把握する目的でオリジナルのグラフシートを作成し、要約したデータとルミコの心境に変化が見られる出来事とを関連付けながら、分析箇所を選定した。そこで得られたデータをもとにストーリーラインを作成し、ルミコが自立に向かうプロセスを浮き彫りにした。

以上の分析結果から、治療が順調に進んでいる際に見られる期待の語り、判定結果に翻弄されたり他者と比較して落ち込む際に見られる不安や劣等感の語り、信頼する

友人や夫とのやり取りに見られた今ある日常を大切にしたいとする語り、治療生活を振り返る語り、「ルミコ」を「もう一人の自分」として捉える語り、といった語りの存在を確認した。そして、これらの結果を A・フランクが提唱した概念である病いの語りの三類型と関連付け、ルミコが自己を語ることを通して悩みとどのように向き合ってきたのかを考察した。またルミコをブログの著者として捉えなおし、ブログ行為の可能性について言及した。